

講義科目名称： 情報活用法

授業コード：

英文科目名称： Information Utilization Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2025	1年	1	卒業必修
担当教員			
山川 恭子			
演習	教職(66条の6) 保育士	基礎教育科目	UFF-1-02
添付ファイル			

日程	後期
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・情報活用を学ぶ意義 情報処理の目標と意義、講義のねらいと方法、評価などの説明 情報社会と教育の情報化の現状について理解する</p> <p>第2回 教育課題の情報収集の実習：情報探索法（1） 各種情報資源と情報探索法の基礎 Web情報資源の探索法と活用</p> <p>第3回 教育課題の情報収集の実習：情報探索法（2） 図書情報の探索法と図書館の活用</p> <p>第4回 教育課題の情報収集の実習：情報探索法（3） 雑誌記事索引・電子ジャーナルの探索法と活用</p> <p>第5回 教育課題の情報収集の実習：情報探索法（4） 事実情報の探索と収集 言葉・事柄・人物情報の検索および統計情報の検索</p> <p>第6回 情報整理法の指導（1） 収集した情報の分類・整理法と情報の加工 パスファインダーの概要 主題へのアプローチ</p> <p>第7回 教育課題の情報収集の実習：情報探索法（5） 主題に基づく情報資源の検索と収集</p> <p>第8回 教育課題の情報収集の実習：情報探索法（6） 主題に基づく情報資源の探索 主題検索と図書資料の探索の実践</p> <p>第9回 情報整理法の指導（2） パスファインダー作成における学習効果を理解する パスファインダーの構成を理解する</p> <p>第10回 情報整理法の指導（3） パスファインダーの作成</p> <p>第11回 情報整理法の指導（4） パスファインダーの作成</p> <p>第12回 情報整理法の指導（5）・情報表現法の指導（1） パスファインダーの作成と更新 ループリックの基礎知識</p> <p>第13回 情報表現法の指導（2） ループリックの作成</p> <p>第14回 情報表現法の指導（3） パスファインダーの相互評価・フィードバック</p> <p>第15回 全体のまとめ これまでの学習内容を振り返る</p>
この科目のテーマと授業の概要	本科目は、「情報処理法」の授業内容を踏まえたうえで、あらゆる情報の中から自身にとって必要な情報を主体的に収集・選択する能力、それらの情報を処理・加工し、発信する能力を身につけることを主な目的として、情報社会に関する理解を深め、将来教員になったときに必要なコンピュータの知識と操作方法、情報モラル、情報通信技術（ICT）、各種オンラインサービスを利用した情報検索法・情報整理法・情報表現法について、演習を通して学習し、教育の情報化に対応できる教員としての知識や技術を身につけることを目的とする。
この科目を履修する学生が達成すべき学修成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会と、それに伴う教育の情報化について理解し、将来教員になったときに情報機器を活用した教育を実践することができる。 2. コンピュータやネットワーク等の一般的な情報通信技術（ICT）に関する知識を身につけており、それらの知識を学生生活や社会生活に生かすことができる。 3. 自身の目的に応じて、適切な情報源の選択と情報探索のスキルを身につけており、収集した情報を整理・加工して他者に向けて表現することができる。 4. 情報セキュリティ、情報倫理、著作権に関する知識を有している。
教科書	なし。 毎回の授業で必要な資料(電子ファイル)を配布する。
参考書、指定図書、資料など	1. 佐藤望[他]著『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第3版』慶應義塾大学出版会、2020、ISBN:9784766426564、育英大図書館所蔵(https://ikuei.opac.jp/opac/Holding_list?rgtn=069530)

	2. 鹿島みづき著『パスファインダー作成法 主題アクセスツールの理念と応用』樹村房, 2016, ISBN:9784883672585, 育英大図書館所蔵(https://ikuei.opac.jp/opac/Holding_list?rgtn=064497)
成績評価方法	授業内で実施する小テスト(40%)、最終課題レポート(50%)、相互評価への取り組み姿勢(10%)によって評価する。
事前・事後学習	毎回の内容の理解を確実にする。 日頃から教育に関する情報収集に努め、それについて考察する。 〔事前・事後学習:各0.5時間:合計1時間以上〕
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・将来教員になるための力量を高めようという意欲を持って受講することを望む。 ・講義には真剣に取り組み、欠席しないこと。
担当教員実務経験	
ディプロマポリシーとの関連	<p>〔児童教育専攻〕</p> <p>1. 児童教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。</p> <p>〔スポーツ教育専攻〕</p> <p>1. 体育・スポーツ教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。</p>
フィードバック方法等	小テストのフィードバックはGoogle Classroomまたは次回の授業冒頭で実施する。
アクティブ・ラーニング	○